

AI オンデマンド乗合交通「とりモビ」の実証運行再開について

1 事業の目的

公共交通の利用が減少する中で、高齢者や若年層、子育て世代を中心に、自宅からスーパー、病院、教育機関等への近距離移動に対するニーズは高まっています。

利便性の高い交通手段を導入することにより、公共交通を使った移動需要を喚起し、公共交通全体の利用率向上を図ります。

2 事業の経緯

本市では、自家用車に過度に頼ることなく、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる持続可能な公共交通のあり方を検討しています。

その取り組みの一環として、令和5年10月から令和6年2月まで、AI オンデマンド（予約型）乗合交通「とりモビ」を試験的に導入し、公共交通の利用促進と地域活性化への影響を検証する社会実験を行いました。実証運行の結果は別紙のとおりとなります。

この度、更なる検証を行うため、「とりモビ」の実証運行を再開することとしました。

3 事業の内容

(1) 運行期間 令和6年5月20日（月）
～令和7年3月31日（月）

(2) 令和5年度からの変更点

- ・車体の視認性を高めるため、車体をラッピング
- ・乗降をサポートするため、車体に電動の乗降ステップを設置
- ・運送効率を高めるため、AI 配車システムの設定を変更（相乗りとなる割合を調整）



ラッピングイメージ

※以下は、令和5年度と同様

- (3) 運行時間 8:00～22:00
- (4) 運賃 400円/回（小学生200円/回、幼児無料）
※回数券プラン、定額プラン（30日間）あり
- (5) 運行区域 鳥取駅南エリア（右図）
- (6) 乗降場所 エリア内に約200か所の乗降ポイントを設定
- (7) 実施主体 とっとり共創型交通協議会
（会長：鳥取ハイヤー共同組合 理事長）
（協議会事務局：鳥取県交通政策課、鳥取市交通政策課）
- (8) 運行事業者 日ノ丸ハイヤー株式会社、有限会社サービスタクシー



4 その他

- ・利用者の意見を参考とし、また、商業施設や医療施設等と連携した乗降地点を設定
- ・プッシュ型連絡や各種広報媒体の活用、運行再開キャンペーンを活用し利用促進を図る
- ・他分野との共創していくことで、新たな移動の掘り起こしを検討する
- ・公共交通の一部として定着できるか利用者を増やして検証する

令和5年度オンデマンド乗合交通の実証運行について

1 利用実績（2月は、2月9日まで）

(1) 利用者数

①合計数

		10月	11月	12月	1月	2月	計
電話	件数	127	32	31	33	15	238
	人数	158	34	34	37	17	280
アプリ	件数	1,063	422	633	663	241	3,022
	人数	1,596	522	781	778	279	3,956
合計	件数	1,190	454	664	696	256	3,260
	人数	1,754	556	815	815	296	4,236
電話予約率	件数	11%	7%	5%	5%	2%	6%

②1日平均

		10月	11月	12月	1月	2月	平均
電話	件数	4.2	1.1	1.0	1.2	1.7	1.6
	人数	5.7	1.1	1.1	1.3	1.0	1.9
アプリ	件数	35.4	14.1	21.1	23.7	26.8	18.6
	人数	53.2	17.4	26.0	27.8	31.0	25.1
計	件数	39.7	15.1	22.1	24.9	28.4	20.2
	人数	58.5	18.5	27.2	29.1	32.9	27.0

(2) 利用方法（人）

	11月	12月	1月	2月	計
一時利用	237	316	289	85	887
回数券(5)	8	8	5	0	21
回数券(10)	2	2	0	0	4
定期券	7	13	17	0	37
計	254	339	311	85	949

※定期利用の月平均利用回数は35回/人

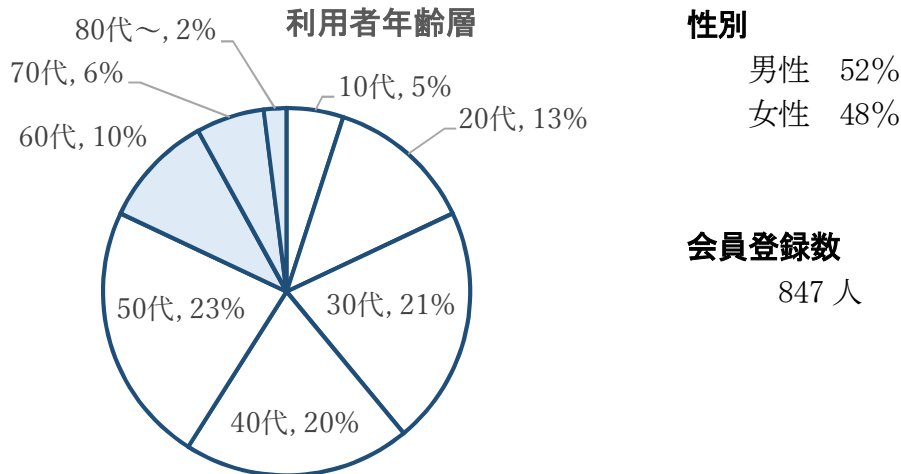
(3) 運賃収入（円）

	11月	12月	1月	2月	計
一時利用	87,600	118,900	101,400	28,000	335,900
回数券(5)	7,200	15,200	15,200	0	37,600
回数券(10)	17,100	3,600	0	0	20,700
定期券	30,500	42,500	31,500	0	104,500
計	142,400	180,200	148,100	28,000	498,700

(4) 相乗り率

10月	11月	12月	1月	2月	平均
17.6%	10.1%	8.4%	12.6%	11.8%	13.2%

(5) 利用者属性



2 ワークショップ（3回開催）

【利用者対象（公募）WSにおける主な意見】

- ・運行エリアの拡大
- ・乗降時のステップを設置
- ・夜間も見えやすい装飾
- ・繁忙時間の台数確保（休憩時間の調整）
- ・乗降地点の分かりやすい名称

3 共創の取組み

- ①路線バス位置情報の提供（公共交通への誘導）
- ②カーシェアリングとの連携（モニター募集）
- ③丸由百貨店との連携（ほっぺ焼きプレゼント、会員DM発送）
- ④徳吉薬局との連携（お薬配達、代理予約）
- ⑤社会福祉協議会との連携（サロンでの説明会）
- ⑥飲食店との連携（ポスター掲示、利用者への割引特典）

4 運行経費

ランニングコスト（月額） 280万円 ※国庫補助金を充当

5 利用者からの意見

- ・外出機会が増えた
- ・運転免許証の返納を考えた
- ・最小限の移動に制限していたが、行きたい所まで行くようになった
- ・アプリで新しいお店を発見して行くのが楽しい